

ビルマ戦線
慰安婦20人

旧軍関与 米側に証言

米軍尋問報告書

第二次大戦中、日本植民地下の朝鮮からビルマ（現ミャンマー）の戦線に送り込まれた朝鮮人従軍慰安婦の募集から現地の管理まで旧日本軍が深くかかわっていたことを示す生々しい記録が、従軍慰安婦捕虜の証言をまとめた米側資料で二十六日明らかになった。（ワシントン＝共同）

旧日本兵が行列 休みなしに相手

雇用主に軍書簡 通行などに便宜

米側資料には、朝鮮人慰安婦二十人の氏名、年齢、住所も記載されている。この米側資料は、米メリランド州スーランドにあるワシントン記録センター（国立公文書館付属）に保管されている「米軍尋問報告書」二通。

報告書は、一九四四年八月、ビルマ戦線に送り込まれた旧日本軍とともに逃避行中に米軍捕虜となった朝鮮人従軍慰安婦二十人の供述などを基に作成された。

報告書によると、当時のビルマに送られた朝鮮人慰安婦は四二年八月の輸送船だけで七百三人。このうち捕虜となった二十人は当時、十九歳から三十一歳。四二年八月、應召主の日本人夫妻と日本植民地下の朝鮮からラングーン（現ヤンゴン）に到着、翌年一月に北部の町ミッチナに移り、この日本人が経営する慰安所で、行列する旧日本兵を相手に週七日間休みなく働かされ続けた。

一結に捕虜になった慰安所経営者は尋問に対し、ソウルにあった日本陸軍の朝鮮軍総監部から持ち掛けられて一人当たり当時の金で三百円から千円の割渡しかつたとして供した。その際、総監部から全陸軍司令部あての密書を手渡され、その中で輸送から医務まであらゆる面で一行の便宜を図るよう指示していたという。

朝鮮人慰安婦の供述によると、現地では、部隊別の慰安所利用日から重傷による慰安婦の性病検診まですべて軍が決定した。